



コミュニティ しずおか

2025
1月
No.177



稲作体験を支えています！

わいわい塾（沼津市）

▼土に触れる機会の少ない子どもたちに、稲作体験を通じて米作りの大切さを学んでほしいと2003年に発足したわいわい塾。現在、会員14人（平均75歳）で、愛鷹小学校5年生の総合学習をサポートしている。

▼今年もお米がちゃんと育つよう、除草、肥料散布、水張り等わいわい塾がしっかり管理。11月には学校から「収穫感謝の会」に招待され、寸劇やスライドで米についての学びの発表を楽しんだ。「作業の度にたくさん質問してくれて嬉しいです」と重倉代表。会員の高齢化という課題もあるが、子どもたちの学びのために活動を続けていく。

※興味のある方一緒に活動してみませんか？

◇代表：重倉初男さん（問合せ・090-2616-7812（江本さん））

【情報提供・高村 光】

Topics トピックス

活動賞審査結果…………… P2～3
令和6年度「コミュニティ活動賞」審査結果
ようこそコミュニティ（川根本町）… P6
地域訪問記（掛川市） … P7



コミック
のじぎょ
りえ



令和6年度 コミュニティ活動賞

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、ここで紹介する優秀賞3団体ほか、別表のとおりです。なお、優秀賞、優良賞の表彰式を令和7年2月15日に開催するコミュニティフォーラム2025の席上で行います。

優秀賞

柚野山を四季彩の森へ ～どんぐりがひろえる、すべての生き物にやさしい里山づくり～ NPO法人YUNOどんぐりの会(富士宮市)



ボーイスカウトの子どもと一緒に沢の整備

昭和20～30年代に植林されて放置されている山を、四季の彩あふれる山に変えたいと思い、2011年から放置林の針葉樹伐採と広葉樹植樹を始めた。2015年にNPO法人を取得。中高年が中心となり、美しく誰にもやさしい里山を実現するために頑張っている。

活動は広葉樹の植樹がメインで、これまでに8,670本を植樹（落葉広葉樹29種）。柚野小学校児童が植樹をし、柚野中学校生徒が下草刈りという流れで一緒に活動していることにより、活動に興味を持ち続けてくれている。

今後は、気楽に集い語り遊べる場として、古民家風建物を中心としたどんぐりの森交流広場を建設する予定である。

地域課題の解決に向けて、協働のまちづくりをすすめよう

相良地区絆づくり事業実行委員会(牧之原市)



相良小150周年記念6区対抗玉入れ

きっかけは、2005年に相良町と榛原町が合併し牧之原市が誕生した際に、市が全体の融和を図るために「まちづくり」を始めたこと。相良地区は3,647世帯、6つの区からなる。2015年からコロナ禍の2020年を除き、毎年イベントや防災意識の向上につながる事業等を実施している。

昨年度は相良小学校の創立150周年を祝いながら「少子高齢化」に負けない住民活動を意識的に作り上げようと、相良の街の思い出展や6区対抗玉入れ競争、最後に参加者全員で校歌を歌う等、参加者が主体に協働体験ができるプログラムを企画。約500人が参加しイベントを通じて「区民協働意識」が培われた。



きつず食育チャレンジでのソバの種まき

2012年、市の農水課より、耕作放棄地の解消と地域の景観形成の取組みの提案を受け、当時の自治会長や地元の仲間に声を掛け始まった。農地保全活動や耕作放棄地の解消とそれを利用した農業体験を実施。お花畑づくりや野菜、穀類、果樹等を栽培し、販売や収穫物の二次利用によるワークショップの開催。地元交流センターとのタイアップによる「きつず食育チャレンジ」の共同開催などを行っている。

チューリップ 4,000 球を植えて作るお花畑は、地元小中学校の子どもたちや地元ボランティアの協力で植えられ、花が咲くころに交流センターにてコンサートを開催。地域に根付いた活動を行っている。

優良賞

- 沼津市 沼津市金岡コミュニティ推進委員会社会福祉部
- 静岡市 長田東社会福祉協議会 ささえ愛
- 磐田市 みんなでうさぎ山を楽しむ会
- 磐田市 豊島みんなの農園
- 浜松市 椎ノ木谷保全の会

※当協議会HPで、全団体の活動内容を紹介しています。

奨励賞

- 御殿場市 ごてんば森っ子クラブ
- 裾野市 ニツ屋愛好会
- 掛川市 NPO法人f.a.n.地域医療を育む会
- 袋井市 袋井ベトナム友好協会
- 磐田市 南御厨地域づくり協議会移動支援サービス【もろこ号】運行委員会
- 浜松市 イズミウルトラキッズラボ

審査総評 (川口良子 審査委員長)

本年度の活動賞は10市14団体の応募があり、優秀賞3団体、優良賞5団体、奨励賞6団体となりました。

本年度の特色として、環境保全、まちづくり、社会福祉、地域医療、国際化など、多様な特徴あるテーマの活動団体からの応募があり、加えて全体として一定レベル以上の活動であったことから、審査委員の評価が分散したことが挙げられます。その中、学校や地域と積極的に関わりを持つNPO法人等の活動、ボランティアを募り地域の住民同士で支え合う仕組みを構築した活動、休耕田等を活用した住民参加による農作業や収穫イベントを行う活動などに評価と期待が寄せられました。一方、地域とのつながりが明確でないものや、ウェブの活用などによる地域への情報発信が十分でない活動について、改善を期待する指摘がありました。

審査においては、「放置された針葉樹林を広葉樹林に替え、小中学校と連携しながら生き物にやさしい里山づくりを行っている活動」、「合併を契機に、地域の課題解決を、防災やまちの再発見等の住民協働の活動により取り組んでいる活動」、「公的な交付金等を活用しながら、耕作放棄地の解消、花の植栽による景観向上、軽トラ市への参加、農福連携の試み等、地域での広範な活動につなげている団体」などが、審査委員の高い評価を得ました。

また審査の過程で、広い地域で活動を行う場合においても身近なコミュニティへの視点と関係を持つことの重要性や、様々な公的な助成等を住民の継続的なコミュニティ活動に有効につなげていく姿勢や工夫の必要性が意見として出されました。

今年度は市部の団体のみ応募となりました。次年度以後は、町部も含め、県下各地のコミュニティ活動団体が、知恵と工夫を駆使しながら、積極的にコミュニティの強化と地域課題の解決に向けた活動に取り組み、本「コミュニティ活動賞」に多数応募されることを期待しております。



まちからむらから



伊東市 第1回温泉ポッチャ大会～ポッチャで地域活性化～

(一社)伊豆高原観光
オフィス(略称:IKO)



熱戦が繰り広げられた

▼去る11月4日、伊東市で「温泉ポッチャ大会」が開催された。3人1組、17チームの老若男女が参加。伊東市出身のパリパラ銅メダリストの杉村英孝選手の開会の言葉「年齢に関係なく最後の最後まで楽しめるのがポッチャです」の通りに、最後1球でのどんでん返しや作戦負け等があり、若者チームを破ってシニアチームが見事優勝した。

▼市民有志の「友祥会」と一緒にこの大会を主催した「IKO」は、「ポッチャ」の高齢者サロンでの活用や「温泉卓球」ならぬ「温泉ポッチャ」の普及を目指している。今後は、各地域で「練習会」を月2回程度開き、ポッチャの楽しさを広めると共に、イベントやサロン等でルールを指導する人材の育成を目指す。

▼今大会の優勝チームは11/24の「川崎市幸区ポッチャ大会」に招待され、幸区の優勝者は、3/16に開催する「伊東市長杯」に招待する等、自治体間の交流にも力を入れている。

◇審判部長：利岡正基さん（問合せ・0557-28-0129（IKO））

【情報提供・佐藤みつ子】

小山町 8年ぶり！地区に響く「ワッショイ！」

落合熊野神社
氏子会

▼去る10月13日に、小山町落合地区の熊野神社（氏子170世帯）で、4年に1度の例祭がコロナ禍を経て8年ぶりに開催された。当日は幼児から中学生まで44人の子どもたちが神輿を担ぎ地区を練り歩いた。子どもたちの声が響き「何処にこんなに子どもがいたのか」と大人も喜び声援を送り、静かな町が活気であふれた。

▼子ども会離れにより本年度で子ども会が解散する落合地区。担ぎ手の子どもが足りないため氏子会役員が相談し、若い世帯が参加しやすいよう、子ども会や地区の枠を外して子どもを募集するとともに、区の行事の「交流会」を同日に開催するというこれまでと違う形に。

▼「多くの地区で行事の継続が大変になっていますが、集まらないからで終わらせず、どうしたら人が集まるのか工夫する事が大切だと思います」と横山代表。式典の後の交流会は、境内に20台のテーブルが並び、総勢120人が参加。秋晴れのもと皆で食べる食事は特別な味となった。

◇代表：横山明夫さん（問合せ・0550-76-0022）



8年ぶりの子ども神輿

【情報提供・秋田美来】

富士宮市 枯木よ蘇れ！アートのある町づくり

富士宮市
青木平区自治会



防腐剤を塗布する

▼250世帯が住む富士宮市青木平地区に続くメイン道路に、フクロウやウサギ、クマが現れ、道行く人から注目を浴びている。

▼宅地造成から40年が経ち、メイン道路の両側に植えられたケヤキの木の中には立ち枯れしてしまった木もある。区長の武井さんは、地域と共に育った木を、枯れたからといって根本から切ってしまうのは忍びないと、チェーンソーアートとして蘇らせることを思いついた。チェーンソーアーティスト探しや市の道路課と協議し3年程かかったが、昨年8月、3人の作家の個性がよく表れた6つの作品が完成した。

▼「作品は、地区のシンボルとなり、住民の誇りとなっています」と武井さん。作品を目当てに訪れる人々も増え、アートを通じて住民と来訪者が共に楽しめる、魅力あふれる町づくりを実現している。未永く愛されるよう、今後のメンテナンスは住民で行っていく。

◇区長：武井信夫さん（問合せ・090-7699-3563）



静岡市

地域ふれあいもみじまつり

草薙テラス

▼清水区の有度地区で、赤ちゃんからお年寄りまで皆が自由に集まる居場所の運営をしている草薙テラスが、12/2に草薙三角緑地公園で「第3回有度ふれあいもみじまつり」を開催した。

▼「地域の人と触れ合うイベントをしてみたいね」そんな声から始まったお祭りで、今年は、有度第2小学校の代休日に合わせ開催。地元の農産物や手作り雑貨等の販売を担当するボランティアを学校に呼びかけたところ15人が参加。お金のやり取りに緊張しながらも商品は完売。また、ステージでは総合学習で、有度地域について学んだことを発表した小学生が、観客から大きな拍手を受けていた。

▼「手伝いの場や発表の場を設け地域の大人に褒められる機会をつくりました。小さな自信を積み重ねる経験をして、自分に自信をもってほしいですね」と戸塚代表。保育園の幼児たち、小学生、ご近所の方など442人が参加し大盛況で終了した。

◇代表：戸塚恵美子さん（問合せ・054-344-1102）



スタッフお手製の帽子を被り元気よくお手伝い



藤枝市

しずおか遺産学習会『今川一族を支えた、朝比奈の人々』

朝比奈^{ちまき}粽保存会



保存会の案内で文化財の現地めぐり

▼昨年1月に県から「しずおか遺産」として指定された『文武に秀出た今川一族～伝統を守る山西の地～』は、志太地域にある今川氏に関連する26の文化財で構成され、このうち藤枝市岡部町朝比奈地区には「朝比奈城址」「朝比奈ちまき」「朝比奈大龍勢」の3つがある。今回の指定を機に朝比奈地区の歴史を学び、これら遺産を地域の宝として未来につなげようと、朝比奈粽保存会が関連団体と連携して学習会を開催した。

▼岡部第5自治会は地域住民への呼びかけ、朝比奈龍勢保存会や岡部町観光ボランティアの会、朝比奈粽保存会は各々の歴史資源の説明役を担当。9/27、10/27の2回で延べ52人が参加した。開催にあたり、焼津市の関連団体等と情報交換を行い、地域間の交流が深まった。今後、しずおか遺産に関連する他市との連携事業も期待される。

◇代表：鈴木秀樹さん(問合せ・090-8072-8367(萩原さん))

【情報提供・梅原 仁】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）



No.	市町	活動名	主催者	趣旨・目的	情報通信員
1	函南町	誰もが自由に過ごせる居場所でまた明日！	またあしたカフェ	心地の良い居場所として住民同士がつながり楽しい時間を過ごす。	太田輝彦
2	伊豆の国市	みんなが楽しめる癒しの森づくり！	森林づくり伊豆の会	荒廃した里山を整備しながら誰もが楽しめる「癒しの森づくり」。	柴田三智子
3	裾野市	カラーリングで地域を元気に!!	裾野カラーリングクラブ	仲間づくりや健康づくりに最適なカラーリングの普及に努める。	志田忠弘
4	静岡市	ごちゃまぜフェスタ（しずまごちゃまぜフェスタin長田）	長田地区5社協	長田地域の繋がりと一体感、福祉の文化づくりを目指して開催。	吉田敏明
5	掛川市	三世代交流イベント（世代間の交流による笑顔あふれるまちづくり）	大阪地区まちづくり協議会	全ての地区住民が共に支え合い、子どもたちが大阪地区に生まれて良かったと思えるまちづくり。	安藤ミエ
6	森町	森町病院と住民の架け橋	森町病院友の会	地域医療を担う公立森町病院への理解と支援を目的に、互いに支え合う地域づくりに寄与する。	山田勝恵
7	湖西市	市民団体と企業が取り組む育樹活動	株式会社デンソー湖西製作所・湖西フロンティア倶楽部	社会貢献活動としての育樹活動を目的に行った取り組み。	片山愛司



発足間もない団体を紹介します。



お子さんと板谷さんと川口さん



きりんひろば
で自由に遊ぶ



子ども食堂の
方とコラボし
ています

子どもたちがありのままに楽しむ「きりんひろば」

かわねきりんの会 (川根本町)

金谷駅から大井川沿いを車で1時間。令和5年10月に川根本町に発足した「かわねきりんの会」を訪ね、代表の板谷知加さん、川口舞子さんに子育て活動への思いを伺ってきました。

会を立ち上げた経緯

5年前にご主人の故郷である川根本町に移住してきた板谷さん。3人の子どもを育てていく中で、大人の目が届きすぎて、子どもの主体性を大事にする機会が減っているのでは?と考えていました。丁度同じ頃にご家族で北海道から移住してきた川口さんは、本とおもちゃを置いて地域の憩いの場を作りたいと、喫茶併設の「てんでんこ」を3年前に開店しました。開店準備中から注目していた板谷さんは直ぐに川口さんと意気投合。一昨年「かわねきりんの会」を立ち上げました。

かわねきりんの会の活動

現在、メンバーは15人で、子育て世代が中心の平均年齢35歳。「地域みんなで子どもを信じ、育ちあう姿を見守る雰囲気づくり・居場所づくり」を会の理念に、旧町立小学校や町内の公園で2か月毎に「きりんひろば」を開催しています。活動資金はメンバーの持ち寄りときりんひろば開催時の募金箱への協力金です。「子どもがいつでも遊んでいてもいい」という意識を地域に根付かせようと試行錯誤しながら楽しく活動をしています。

きりんひろばとは?

「ここでは〇〇体験や△△大会は企画しません」と川口さん。コンセプトは「主体的に子どもに遊んでもらいたい」であるので大人が作った体験メニューなどはありません。

遊ぶきっかけとして廃材や太鼓など、居合わせたメンバーが持ってきてくれた「何か」を置くだけ、または大人も自由に遊んでいるだけです。もじもじしている子がいても極力声をかけず見守ります。

当初は、イベントだと思って参加した親子が何をしているのか戸惑っている様子も見られましたが、今は準備だけするとそれらを使って子どもたちは自分で考えて自由に遊んでいます。

町の課題の解決にも…

「きりんひろば」は、同じ世代の子どもを持つ親同士の交流の場でもあり、会場の近隣に住む高齢者が子どもの声に誘われて訪れる地域住民の居場所にもなっています。「子育てが楽しくできる町になれば、人口を増やすことにもつながると思うんです」とお二人は笑顔で語ります。今後は活動拠点の場をつくり、いつでも誰でも来れるようにしたいそうです。

「かわねきりんの会」は、その昔あった子どもたちが自由奔放に育った環境を現代に再現して、地域みんなで子どもたちを自由にのびのびと育てたいとの熱い思いに燃えたグループでした。



Instagram

◇代表:板谷知加さん(問合せ・kawane.kirin@gmail.com)

【情報提供・植田直美】



レポート: 峰野 勇 編集委員

地域訪問記

団体の継続に着目し紹介します。



近所の方がお手伝い



1ヶ月かけて準備する

2,000体のお雛様に再び光を! 住民のための地域コミュニティの場を守る

さくら咲く学校 (掛川市)

掛川市北部にある原泉地域は、160世帯420人、65歳以上の人が多く住む中山間地。地域の交流施設「さくら咲く学校」は、毎年3月になると2,000体以上のお雛様が体育館に展示され、地域の一大イベントになっています。代表理事の佐藤さん、理事の杉山さんにお話を聞きました。

さくら咲く学校はどんな施設?

平成23年、廃校になった旧原泉小学校を活用し、住民が中心となって運営する「原泉地域立さくら咲く学校」が創立され、高齢者サロンの併設、教室やグラウンド、体育館の有料貸し出し、自主イベントの開催をしています。芸術家、ドローンスクール、ミシン教室等、一緒に事業に参画するメンバーが長期入居し、また、大学のゼミの研修会や写真撮影等で利用するコスプレイヤーも多いとか。

お雛様が紡ぐ助け合いのコミュニティ

「お雛様だしてないね」そんな雑談から始まったお雛様飾り。当初は教室に収まる程度だったが、どんどん口コミで集まりだし、今では体育館を埋め尽くすほどに。「準備は大変ではありませんか?」その問いに、杉山さんは「組み立てに時間がかかるけど、毎年のもので覚えたよ」とこやか。佐藤さんも「家にあるものを出す感覚です」と言いますが、飾り付けは2月上旬から始まり、每晚19~21時に底冷えする体育館で黙々と並べて1カ月かかるそう。5人の理事の皆さんが中心となって準備しますが「さくら咲く学校」の入居者や地元内外のボランティア、グラウンドでウォーキングをしている人がついでに…等、100人近くが入れ替わりで協力してくれます。

さくら咲く学校は再び光を当てる場所

展示期間中は体育館の利用収益が無くなりますが、廃校を再活用したこの学校は、まだまだ利用できるものに光を当てる場。飾られなくなったお雛様を展示し息吹を

与えることで再活用の大切さを伝えたい思いがあります。「毎年わが家のお雛様に会えて感謝」「素晴らしい!大変見応えがありました」とノートに書かれたたくさんのコメントは皆さんの励みになっています。

今年も3月にお雛様を展示します!

年間1万人が訪れるさくら咲く学校。老朽化してきていますが、学校は住民の一斉清掃できれいに保たれ、原泉の人々がいつでも集まれる場所として、大切に使用されています。「学校は地域コミュニティの拠点。一度無くなってしまったが、この学校は皆が集まる場として残し続けたい」と佐藤さん。

今年のお雛様の展示は3月2日~4月6日です。年々お雛様は増え続けていて圧巻の光景です。校庭では樹齢75年のソメイヨシノもお出迎え。ぜひ、掛川市萩間の「さくら咲く学校」に遊びにきてくださいね。

※ひな人形の展示準備と片付けのボランティアを募集します。展示準備のお手伝いは2月22~24日の9時~15時。片付けのお手伝いは4月12、13日の9時~15時を予定。下記連絡先へお問い合わせ、または当日さくら咲く学校にお越しください。



さくら咲く学校HP



左から佐藤さん、杉山さん

◇理事長:佐藤 忍さん(問合せ・0537-25-2580(学校9-16時))
【情報提供・加藤和男】



レポート:矢野さちこ 編集委員



地域情報をお寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856
 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階
 【TEL】054-251-3585
 【FAX】054-250-8681
 【URL】http://www.sizcom.jp
 【E-mail】sizucom0829@po.across.or.jp

地域活動に関心のある方へ!

お知らせします

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

コミュニティ・フォーラム 2025

入場無料(要申込 先着順)

迫りくる大災害!
 そのときコミュニティは!?
 ~地域防災と超高齢社会における共助を考える~



2025年2月15日(土) 10時30分~15時40分
 会場 ワークピア磐田 多目的ホール(磐田市見付2989-3)

プログラム

- 10:00~ 受付
- 10:30~ 開会 主催者・来賓挨拶
- 10:50~ 表彰式 令和6年度コミュニティ活動賞
- 11:10~ 基調講演
 「いつか来るその日に備えて~
 超高齢時代の安全安心な地域社会づくり~」
 講師 鍵屋 一 氏
- 13:00~ 活動事例発表
 令和6年度活動賞 優秀賞受賞団体
- 13:50~ パネルディスカッション
- 15:40~ 閉会

基調講演 講師



跡見学園女子大学 教授
 鍵屋 一 氏

秋田県男鹿市生まれ。板橋区役所入区後、防災課長、危機管理担当部長(兼務)、議会事務局局長を経て2015年3月退職。同年4月から跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科教授、法政大学大学院兼任講師、名古屋大学大学院兼任講師、京都大学博士(情報学)

パネルディスカッション「地域防災と超高齢社会における共助を考える」

- パネリスト
 廣瀬 勉 氏(富士市西宮島区区长兼自主防災会会長 富士市)
 藤澤弘子 氏(復幸ボランティアやらざあ駿河共同代表 静岡市)
 安部詠司 氏(コミカレ・ねっとわーく会長 磐田市)
- コーディネーター
 鍵屋 一 氏(跡見学園女子大学 教授) 伊藤光造 氏(NPO法人くらしまち継承機構 理事長)



参加申込フォーム

令和6年度
 コミュニティカレッジ終了!



通算45回目となるコミュニティカレッジが11月9日に終了しました。

最終日のファシリテーション講座では、自分の活動にどう活かすかの視点を持って学びました。今年度は計20人が修了し、昭和55年からの修了者は2,413人です。



常務のつ・ぶ・や・き

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年15年振りに知事が交代した静岡県が現在策定中の新総合計画。目指す姿は「幸福度日本一の静岡県」だという。県の情報誌で鈴木知事は、

幸福感を上げるキーはコミュニティの満足度だとして、「住民の皆さんが地域の構成員としてアイデンティティを持ち、一緒になっていろいろな取り組みをしていると満足度が非常に高いのです。」と熱く語っている。我が意を得たりの心境だ。

近年、少子・高齢化や人口減少、自治会・子ども会離れなど厳しい環境にある地域コミュニティだが、日々、自分の住むまちに誇りと愛着を持ち、よりよい地域にしたいと協力して取り組まれている多くの読者の頑張りが、コミュニティの満足度を高め、県民の幸福度を上げていく。是非とも、行政の力強い後押しを期待したい。

